科目名： 国語1a		英文名： Japanese 1a	
担当者： 大内清司　岡本美智子			
工学科： 総合システム	学年： 1	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 必修	単位数： 1.5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週 「漢文入門」 第　2週 「漢文入門」 第　3週 「故事」 第　4週　漢字の成り立ち・熟語の構成 第　5週 「頭の中の無限大」坂口恭平 第　6週 「頭の中の無限大」坂口恭平 第　7週 「『赤毛のアン』との出会い」茂木健一郎 第　8週 「『赤毛のアン』との出会い」茂木健一郎 第　9週　試験返却・解答 第10週 「古文入門」 第11週　歴史的仮名遣い・文語文法と口語文法 第12週 「児のそら寝」 第13週 「老僧の水練」 第14週 「想像するちから」松沢哲郎 第15週 「想像するちから」松沢哲郎	■授業概要・方法等 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、コミュニケーション力の向上を目指します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(E-G1)日本漢字能力検定4級程度の常用漢字の読み書きの能力を持つ。 2. (D-G1)(E-G1)文章の組立て、語句の意味などを理解し、語彙を豊かにする。 3. (E-G1)(F-G1)論理的に考え、説得力を持って提示できる書き方を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 『新編　国語総合』 教育出版社 ■参考書 教科書準拠の学習課題集、『常用漢字クリア』尚文出版 ■関連科目　特になし ■成績評価方法および基準 　定期考査成績：定期試験(50%)、小テスト(30%)、提出物(20%)として評価します。　定期試験は中間・期末の2回。 　方式：　記述式 　最終成績：　定期考査成績の平均点とし、90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満「不可」とします。 ■授業時間外に必要な学修 夏季休暇中の作文執筆 ■教員所在場所 大内清司：本館1階保健管理センター、 岡本美智子：2号館2階共通教育科教員室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にWebClassにて入力を実施します。 ■メールアドレス 大内：oouchi@ktc.ac.jp　　岡本：okamoto@ktc.ac.jp

科目名： 国語1b		英文名： Japanese 1b	
担当者： 大内清司　岡本美智子			
工学科： 総合システム	学年： 1	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 必修	単位数： 1.5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　試験返却・解答 第　2週　作文・小論文の書き方 第　3週　表現の工夫・論述の仕方 第　4週 「水の東西」山崎正和 第　5週 「水の東西」山崎正和 第　6週 「治具」塚本由晴 第　7週 「治具」塚本由晴 第　8週 「物語られた過去」内田節 第　9週 「物語られた過去」内田節 第10週　試験返却・解答 第11週　漢字の習得 第12週 「自然保護の二面性」森田正博 第13週 「自然保護の二面性」森田正博 第14週 「見えない貧困―自己責任論批判」湯浅誠 第15週 「見えない貧困―自己責任論批判」湯浅誠	■授業概要・方法等 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、コミュニケーション力の向上を目指します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(E-G1)日本漢字能力検定4級程度の常用漢字の読み書きの能力を持つ。 2. (D-G1)(E-G1)文章の組立て、語句の意味などを理解し、語彙を豊かにする。 3. (E-G1)(F-G1)論理的に考え、説得力を持って提示できる書き方を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 『新編　国語総合』 教育出版社 ■参考書 教科書準拠の学習課題集、『常用漢字クリア』尚文出版 ■関連科目　特になし ■成績評価方法および基準 　定期考査成績：定期試験(50%)、小テスト(30%)、提出物(20%)として評価します。　定期試験は中間・期末の2回。 　方式：　記述式 　最終成績：　定期考査成績の平均点とし、90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満「不可」とします。 ■授業時間外に必要な学修 夏季休暇中の作文執筆 ■教員所在場所 大内清司：本館1階保健管理センター、 岡本美智子：2号館2階共通教育科教員室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にWebClassにて入力を実施します。 ■メールアドレス 大内：oouchi@ktc.ac.jp　　岡本：okamoto@ktc.ac.jp

科目名： 英語1a		英文名： English 1a	
担当者:上田透 オルダネス･ジェームズ 花巻昌子 遠藤千加子 藤川雅行 松山文彦			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 前期
科目種別： 必修	単位数： 3	習熟度別クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 Lesson 1 Mt. Fuji — A Symbol of Japan 第 2週 Lesson 1 Mt. Fujji — A Symbol of Japan 第 3週 Lesson 1 Mt. Fujji — A Symbol of Japan 第 4週 Lesson 2 Sleep in Animals 第 5週 Lesson 2 Sleep in Animals 第 6週 Lesson 2 Sleep in Animals 第 7週 Lesson 3 Nagatomo Yuto — A Long Hard. Road to Success 第 8週 Lesson 3 Nagatomo Yuto — A Long Hard. Road to Success 第 9週 答案返却･解答 Lesson 3 Nagatomo Yuto — A Long Hard. Road to Success 第10週 Lesson 4 *Kawaii* and Japanese Pop Culture 第11週 Lesson 4 *Kawaii* and Japanese Pop Culture 第12週 Lesson 4 *Kawaii* and Japanese Pop Culture 第13週 Lesson 5 Banana Paper 第14週 Lesson 5 Banana Paper 第15週 Lesson 5 Banana Paper	■授業概要･方法等 英語コミュニケーション能力の基礎作りを行います。教科書に沿った授業展開をし、英語を読む、書く、聞く、話す活動を総合的に行います。 ■学習･教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(E-G2) 教科書に出てきた単語、英文法、構文を習得することができる。 2.(E-G2) 読む，書く、聞く、話す活動を通じて、教科書の内容を理解する。 3.(E-G2) 英語や英語圏の文化について興味を持つ。 ことができるようになります。 ただし習熟度Cクラス（1～3)、A1、A2、A3クラス（1～2）を到達目標とします。 ■教科書 Power on English Communication I（東京書籍） New Favorite English Expression I（東京書籍） ■参考文献 なし ■関連科目 英語2～4、英語特講、TOEICプラス、外国文献講読 ■成績評価方法および基準 種類：定期試験（2回）、方式：記述式と選択式 定期考査成績：共通テスト70%、OC10%、小テスト10%、課題10%で評価します。 最終成績：2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 あらかじめ教科書を読み、単語を調べておくこと。 ■教員所在場所 上田：本館1階学生部、オルダネス：図書館1階、花巻、遠藤、藤川：2号館2階共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 10月にwebclassへの入力にて実施します。 ■メールアドレス 上田：ueda@ktc.ac.jp、オルダネス：james@ktc.ac.jp、 花巻：hanamaki@ktc.ac.jp、遠藤：endou@ktc.ac.jp、藤川：fujikawa@ktc.ac.jp、 松山：matsuyama@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と木曜日の12時15分～12時55分

科目名： 英語1b		英文名： English 1b	
担当者:上田透 オルダネス･ジェームズ 藤川雅行 花巻昌子 遠藤千加子 松山文彦			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 後期
科目種別： 必修	単位数： 3	習熟度別クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却･解答 Lesson 6 A Story about Instant Noodles 第 2週 Lesson 6 A Story about Instant Noodles 第 3週 Lesson 6 A Story about Instant Noodles 第 4週 Lesson 7 The Earth, Our Home! 第 5週 Lesson 7 The Earth, Our Home! 第 6週 Lesson 7 The Earth, Our Home! 第 7週 Lesson 8 Mr. Fija and *Uchinaaguchi* 第 8週 Lesson 8 Mr. Fija and *Uchinaaguchi* 第 9週 Lesson 8 Mr. Fija and *Uchinaaguchi* 第10週 答案返却･解答 Lesson 9 The power to Unite People 第11週 Lesson 9 The Power to Unite People 第12週 Lesson 9 The Power to Unite People 第13週 Lesson 10 Carving for the Future 第14週 Lesson 10 Carving for the Future 第15週 Lesson 10 Carving for the Future	■授業概要･方法等 英語コミュニケーション能力の基礎作りを行います。教科書に沿った授業展開をし、英語を読む、書く、聞く、話す活動を総合的に行います。 ■学習･教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(E-G2) 教科書に出てきた単語、英文法、構文を習得することができる。 2.(E-G2) 読む，書く、聞く、話す活動を通じて、教科書の内容を理解する。 3.(E-G2) 英語や英語圏の文化について興味を持つ。 ことができるようになります。 ただし習熟度Cクラス（1～3)、A1、A2、A3クラス（1～2）を到達目標とします。 ■教科書 Power on English Communication I（東京書籍） New Favorite English Expression I（東京書籍） ■参考文献 なし ■関連科目 英語2～4、英語特講、TOEICプラス、外国文献講読 ■成績評価方法および基準 種類：定期試験（2回）、方式：記述式と選択式 定期考査成績：共通テスト70%、OC10%、小テスト10%、課題10%で評価します。 最終成績：2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 あらかじめ教科書を読み、単語を調べておくこと。 ■教員所在場所 上田：本館1階学生部、オルダネス：図書館1階、花巻、遠藤、藤川：2号館2階共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 10月にwebclassへの入力にて実施します。 ■メールアドレス 上田：ueda@ktc.ac.jp、オルダネス：james@ktc.ac.jp、 花巻：hanamaki@ktc.ac.jp、遠藤：endou@ktc.ac.jp、藤川：fujikawa@ktc.ac.jp、 松山：matsuyama@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と木曜日の12時15分～12時55分

科目名： 基礎数学a		英文名： Fundamental Mathematics a	
担当者： 乗本学　小野朗子　山下秀夫　中田祐輝　木谷有希			
工学科： 総合システム	学年： 1		
科目種別： 必修	単位数： 4	習熟度別クラス編成	

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　数と式の計算　整式の計算(整式の加減法) 第　2週　数と式の計算　整式の計算(整式の乗法) 第　3週　数と式の計算　整式の計算(因数分解) 第　4週　数と式の計算　整式の計算(整式の除法) 第　5週　数と式の計算　整式の計算(剰余の定理と因数定理) 単元テスト 第　6週　数と式の計算　いろいろな数と式(分数式の計算) 第　7週　数と式の計算　いろいろな数と式(実数、平方根、複素数) 第　8週　答案返却・解答 方程式と不等式　方程式(2次方程式、解と係数の関係) 第　9週　方程式と不等式　方程式(他の方程式、恒等式、証明) 第10週　方程式と不等式　不等式(性質、1次不等式の解法) 第11週　方程式と不等式　不等式(いろいろな不等式、証明) 第12週　方程式と不等式　集合と命題 単元テスト 第13週　関数とグラフ　2次関数(関数とグラフ、2次関数のグラフ) 第14週　関数とグラフ　2次関数(2次関数の最大・最小) 第15週　関数とグラフ　2次関数(2次関数と2次方程式、2次不等式)	■授業概要・方法等 高専1年生の「数学」では、中学校での授業から引き続き、数学的な考え方、その方法及び計算技術等を発展的に身に付けるようにしなければならない。この授業では、最も基本的かつ重要な整式の計算、数の性質、関数の概念等を学習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)それぞれの語句の意味を理解する。 2. (A-G1)それぞれの基本的計算をする。3. (A-G1)それぞれの簡単な応用問題を解く。 4. (A-G1)それぞれの高度な応用問題を解く。 ことができるようになります。習熟度Sクラスは1～4、A1、A2クラスは1～3、A3、Bクラス1～2を達成目標とします。 ■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組み，結果を担当者が確認します。 ■教科書　新基礎数学(大日本図書)、新基礎数学　問題集、各担当者作成プリント ■参考文献　なし　■関連科目　物理、各専門科目 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回) ,単元テスト(2回) , 方式： 記述式 定期考査成績： 中間試験(定期試験と単元テスト) , 期末試験と課題・レポート・小テストを総合して評価します。 Sクラス： 定期試験60%　課題点40%、A1クラス定期試験70%　課題点30%、A2クラス：定期試験80%　課題点20%、A3、Bクラス：定期試験90%　課題点10% 最終成績： 2回の定期考査成績の平均とします。90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■教員所在場所／メールアドレス／オフィスアワー 乗本学：本館4階コミュニケーションセンター/norimoto@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00：小野朗子：本館2階教務部/ono@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00：山下秀夫：本館4階コミュニケーションセンター/yamashita@ktc.ac.jp /月・木曜日12:15～13:00：中田祐輝：2号館2階共通教育科教員室/nakata@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00：木谷有希：本館2階寮務部/kitani@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00 ■授業評価アンケート実施方法　10月に Web Class で実施します。

科目名： 基礎数学b		英文名： Fundamental Mathematics b	
担当者： 乗本学　小野朗子　山下秀夫　中田祐輝　木谷有希			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 後期
科目種別： 必修	単位数： 4	習熟度別クラス編成	

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　答案返却・解答 関数とグラフ　2次関数の復習 第　2週　関数とグラフ　いろいろな関数(べき関数、分数関数) 第　3週　関数とグラフ　いろいろな関数(無理関数、逆関数) 第　4週　関数とグラフ　復習 単元テスト 第　5週　指数関数と対数関数　指数関数(累乗根) 第　6週　指数関数と対数関数　指数関数(指数の拡張) 第　7週　指数関数と対数関数　指数関数(指数関数) 第　8週　指数関数と対数関数　対象関数(対数) 第　9週　指数関数と対数関数　対象関数(対数関数、常用関数) 第10週　答案返却・解答 三角関数　三角比とその応用(鋭角・鈍角の三角比) 第11週　三角関数　三角比とその応用(三角形への応用) 第12週　三角関数　三角関数(一般角、弧度法) 単元テスト 第13週　三角関数　三角関数(三角関数の性質、グラフ) 第14週　三角関数　加法定理とその応用(加法定理) 第15週　三角関数　加法定理とその応用(加法定理の応用)	■授業概要・方法等 高専1年生の「数学」では、中学校での授業から引き続き、数学的な考え方、その方法及び計算技術等を発展的に身に付けるようにしなければならない。この授業では、最も基本的かつ重要な整式の計算、数の性質、関数の概念等を学習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)それぞれの語句の意味を理解する。 2. (A-G1)それぞれの基本的計算をする。3. (A-G1)それぞれの簡単な応用問題を解く。 4. (A-G1)それぞれの高度な応用問題を解く。 ことができるようになります。習熟度Sクラスは1～4、A1、A2クラスは1～3、A3、Bクラス1～2を達成目標とします。 ■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組み，結果を担当者が確認します。 ■教科書　新基礎数学(大日本図書)、新基礎数学　問題集、各担当者作成プリント ■参考文献　なし　■関連科目　物理、各専門科目 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回),単元テスト , 方式： 記述式 定期考査成績： 中間試験(定期試験と単元テスト) , 期末試験と課題・レポート・小テストを総合して評価します。 Sクラス： 定期試験60%　課題点40%、A1クラス定期試験70%　課題点30%、A2クラス：定期試験80%　課題点20%、A3、Bクラス：定期試験90%　課題点10% 最終成績： 2回の定期考査成績の平均とします。90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■教員所在場所／メールアドレス／オフィスアワー 乗本学：本館4階コミュニケーションセンター/norimoto@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00：小野朗子：本館2階教務部/ono@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00：山下秀夫：本館4階コミュニケーションセンター/yamashita@ktc.ac.jp /月・木曜日12:15～13:00：中田祐輝：2号館2階共通教育科教員室/nakata@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00：木谷有希：本館2階寮務部/kitani@ktc.ac.jp/月・木曜日12:15～13:00 ■授業評価アンケート実施方法　2月に Web Class で実施します。

科目名: 化学1a		英文名: Chemistry 1a	
担当者: 鈴木 隆 當麻祥子			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 物質の種類と性質 第 2週 物質と元素 第 3週 原子・分子 第 4週 電子配置とイオン 第 5週 元素の周期表 第 6週 原子量 第 7週 分子量と式量 第 8週 試験前演習 第 9週 答案返却・解答 物質量 第10週 化学反応式と量的関係 第11週 溶液の濃度 第12週 イオン間の結合, 原子間の結合 第13週 分子間の結合, 金属原子間の結合 第14週 粒子の運動と状態変化, 物質の構造と融点・沸点 第15週 試験前演習	■授業概要・方法等 中学からの理科の流れをくみ, 化学法則の理解に必要不可欠な原子, 分子, 電子などの基礎的な概念の習熟に努め, それに派生する諸現象について実例を交えながら教授し, 深い理解に努めます。化学1aは, 授業だけの学習時間では習熟が難しい科目であります。補助教材を用いての自宅学習が必須であり, 学生諸君が自ら意欲的に反復学習することが求められます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)水素, 酸素の元素記号が書ける。また, 氷が溶けて水になる変化を融解と言うことを理解する。 2. (A-G1)(D-G1)鉛筆1ダースが12本であること。また, 原子・分子1モルが6.0×10^{23}個であることを理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 井口洋夫 他共著「Primary 大学テキスト これだけはおさえておきたい化学」 実教出版 ■参考文献 「チャート式高校化学」 数研出版 ■関連科目 数学, 物理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式:記述式 定期考査成績:提出物(20 %), 定期考査(80 %)で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均で評価します。 90点以上「秀」, 80点以上90点未満「優」, 70点以上80点未満「良」, 60点以上70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分を教科書・参考書で調べ, 自分なりにノート等にまとめ, 疑問が生じれば次回以降の授業にて教員に質問して下さい。 ■教員所在場所 鈴木 隆:本館2階 寮務部, 當麻祥子:2号館2階 共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 10月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス 鈴木:t_suzuki@ktc.ac.jp 當麻:touma@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 化学1b		英文名: Chemistry 1b	
担当者: 鈴木 隆 當麻祥子			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答, ボイルの法則・シャルルの法則 第 2週 ボイル・シャルルの法則 第 3週 気体の状態方程式 第 4週 分圧・浸透圧 第 5週 溶解度, 溶液の性質 第 6週 溶液の性質 第 7週 溶液の性質, コロイド溶液の性質 第 8週 コロイド溶液の性質 第 9週 試験前演習 第10週 答案返却・解答 温度と熱, 反応熱と熱化学方程式 第11週 状態変化と熱化学方程式, ヘスの法則 第12週 反応の速さ, 反応速度を変える条件 第13週 反応のしくみ, 可逆反応と化学平衡 第14週 化学平衡の異動, ルシャトリエの法則 第15週 試験前演習	■授業概要・方法等 中学からの理科の流れをくみ, 化学法則の理解に必要不可欠な原子, 分子, 電子などの基礎的な概念の習熟に努め, それに派生する諸現象について実例を交えながら教授し, 深い理解に努めます。化学1bは, 授業だけの学習時間では習熟が難しい科目であります。補助教材を用いての自宅学習が必須であり, 学生諸君が自ら意欲的に反復学習することが求められます。 ■到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)有効数字の取扱い, 指数表現を理解する。 2. (A-G1)(D-G1)熱化学方程式という言葉を理解する。また, 熱化学方程式中の“＋”が発熱, “－”が吸熱を示すことを理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 井口洋夫 他共著「Primary 大学テキスト これだけはおさえておきたい化学」 実教出版 ■参考文献 「チャート式高校化学」 数研出版 ■関連科目 数学, 物理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式:記述式 定期考査成績:提出物(20 %), 定期考査(80 %)で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均で評価します。 90点以上「秀」, 80点以上90点未満「優」, 70点以上80点未満「良」, 60点以上70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分を教科書・参考書で調べ, 自分なりにノート等にまとめ, 疑問が生じれば次回以降の授業にて教員に質問して下さい。 ■教員所在場所 鈴木 隆:本館2階 寮務部、當麻祥子:2号館2階 共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 2月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス 鈴木:t_suzuki@ktc.ac.jp 當麻:touma@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 日本史1a		英文名: Japanese History 1a	
担当者: 松尾 大介			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 日本文化のはじまり 第 2週 ヤマト政権と古墳 第 3週 律令国家の成立 第 4週 律令国家の繁栄 第 5週 律令国家の変質 第 6週 摂関政治 第 7週 国風文化 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、荘園の発達と武士の台頭・院政と平氏 第10週 鎌倉幕府の成立と発展 第11週 鎌倉文化 第12週 蒙古襲来と幕府の衰退 第13週 室町幕府の成立・下克上の社会 第14週 室町文化・戦国の動乱 第15週 織豊政権	■授業概要・方法等 原始から始まり下克上の社会までを時代別に学習します。学生の興味・関心や疑問などに基づいて主題を設定すると共に，断片的な知識に目を奪われること無く，日本史の大筋の流れや時代の中での意味を見失うことのないように授業を行います。また，現代社会に存在する様々な差別と関連させつつ，法の下の平等の意味を理解できるように進めていきます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G1)原始、古代、中世の政治・経済・文化などを体系的に理解する。 2. (C-G1)現代日本形成の歴史的過程に対する十分な理解と認識を持つ。 ことができるようになります。 ■教科書 「高校日本史B」 山川出版 ■参考文献 特になし ■関連科目 世界史・政治・経済・地理・倫理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)，方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(90%)、プリント・レポート・ノート(10%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とする。 90点以上「秀」，80点以上90点未満「優」，70点以上80点未満「良」，60点以上70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分と課題プリントを教科書・参考書で調べ，自宅学習して下さい。 ■教員所在場所 本館2階 入試部 ■授業評価アンケート実施方法 10月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス matuo@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日9限と木曜日8限

科目名: 日本史1b		英文名: Japanese History 1b	
担当者: 松尾 大介			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答、江戸幕府の成立 第 2週 幕政の安定 第 3週 経済の発展 第 4週 元禄文化 第 5週 幕府の改革 第 6週 幕府の衰退・開国と幕府の滅 第 7週 明治維新 第 8週 立憲国家の成立 第 9週 大陸政策の展開 第10週 答案返却・解答、近代の文化 第11週 第一次世界大戦日本 第12週 政党政治と大衆文化 第13週 恐慌の時代 第14週 軍部の台頭 第15週 第二次世界大戦	■授業概要・方法等 江戸時代から始まり近・現代史までを時代別に学習します。学生の興味・関心や疑問などに基づいて主題を設定すると共に，断片的な知識に目を奪われること無く，日本史の大筋の流れや時代の中での意味を見失うことのないように授業を行います。また，現代社会に存在する様々な差別と関連させつつ，法の下の平等の意味を理解できるように進めていきます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G1)近世、近代，現代の政治・経済・文化などを体系的に理解する。 2. (C-G1)現代日本形成の歴史的過程に対する十分な理解と認識を持つ。 ことができるようになります。 ■教科書 「改訂版 高校日本史」 山川出版 ■参考文献 特になし ■関連科目 世界史・政治・経済・地理・倫理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)，方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(90%)、プリント・レポート・ノート(10%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」，80点以上90点未満「優」，70点以上80点未満「良」，60点以上70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分と課題プリントを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所 本館2階 入試部 ■授業評価アンケート実施方法 2月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス matuo@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日9限と木曜日8限

科目名： 地理a		英文名： Geography a	
担当者： 松尾　大介			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 前期
科目種別： 必修	単位数： 0.5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　地球上の位置と国家 第　2週　グローバル化が進む世界 第　3週　生活に影響を与える環境条件とは 第　4週　人々の生活と地形 第　5週　人々の生活と気候 第　6週　人々の生活と産業 第　7週　人々の生活と文化 第　8週　中国の生活・文化 第　9週　答案返却・解答、韓国の生活・文化 第10週　東南アジアの生活・文化 第11週　インドの生活・文化 第12週　中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 第13週　サハラ以南のアフリカの生活・文化 第14週　ヨーロッパの生活・文化 第15週　ロシアの生活・文化	■授業概要・方法等 現代世界の様々な地域で起こっている自然的・社会的諸事象をグローバルな視点から学びます。系統地理的・地誌的に考察し現代世界の地理的認識を理解することで、地理的な見方、考え方を見につけることができます。また、地域的諸課題について、自然、社会環境を関連付け、主体的に認識、分析・解決していけるように多くの問題提示をおこないます。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.（C-G1）世界の各地で生起する諸事象について、地図などを利用してグローバルな視点、ローカルな視点から考える。 2.（C-G1）世界の自然環境・社会環境の重要な事項について、地理的に認識することができ、地理的な見方や考え方をする。 ことができるようになります。 ■教科書 『高等学校新地理A』（帝国書院） ■参考書 『高等学校新地理Aワークノート』（帝国書院） ■関連科目　日本史、世界史、政治・経済、倫理、経済学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（2回），方式： 記述式 定期考査成績：定期考査(90%)、プリント・レポート・ノート（10%）として評価します。 最終成績：2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」，80点以上90点未満「優」，70点以上80点未満「良」，60点以上70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修　授業で省略した部分と課題プリントを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所　本館2階　入試部 ■授業評価アンケート実施方法　10月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス　matuo@ktc.ac.jp ■オフィスアワー　月曜日9限と木曜日8限

科目名： 地理b		英文名： Geography b	
担当者： 松尾　大介			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 後期
科目種別： 必修	単位数： 0.5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　答案返却・解答、アメリカ合衆国の生活・文化 第　2週　ラテンアメリカの生活・文化 第　3週　オーストラリアの生活・文化 第　4週　複雑にからみ合う地球的課題 第　5週　世界の環境問題 第　6週　世界の資源・エネルギー問題 第　7週　世界の人口問題 第　8週　世界の食糧問題 第　9週　世界の都市・住居問題 第10週　答案返却・解答、身近にあるさまざまな地図 第11週　日本の自然環境と防災 第12週　身近な地域の課題と地域調査 第13週　地域調査の発表 第14週　国際平和と日本 第15週　地球的課題の地理的考察	■授業概要・方法等 現代世界の様々な地域で起こっている自然的・社会的諸事象をグローバルな視点から学びます。系統地理的・地誌的に考察し現代世界の地理的認識を理解することで、地理的な見方、考え方を見につけることができます。また、地域的諸課題について、自然、社会環境を関連付け、主体的に認識、分析・解決していけるように多くの問題提示をおこないます。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.（C-G1）自国、世界の文化や価値観を理解する。自然との調和を考えた視点からものごとを考える。 2.（C-G1）現代世界の地理的認識を養うこと。どこで、どのように地理事象が見られるか考える。 ことができるようになります。 ■教科書 『高等学校新地理A』（帝国書院） ■参考書 『高等学校新地理Aワークノート』（帝国書院） ■関連科目　日本史、世界史、政治・経済、倫理、経済学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（2回），方式： 記述式 定期考査成績：定期考査(90%)、プリント・レポート・ノート（10%）として評価します。 最終成績：2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」，80点以上90点未満「優」，70点以上80点未満「良」，60点以上70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修　授業で省略した部分と課題プリントを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所　本館2階　入試部 ■授業評価アンケート実施方法　2月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス　matuo@ktc.ac.jp ■オフィスアワー　月曜日9限と木曜日8限

科目名: 保健体育1a		英文名: Health and Physical Education 1a	
担当者: 齊藤 彰　逸見俊太			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 集団行動Ⅰ 第 2週 集団行動Ⅱ 第 3週 集団行動Ⅲ 第 4週 基礎体力の向上(トレーニングⅠ) 第 5週 基礎体力の向上(トレーニングⅡ) 第 6週 球技・基礎体力の向上(Ⅰ) 第 7週 球技・基礎体力の向上(Ⅱ) 第 8週 球技・基礎体力の向上(Ⅲ) 第 9週 球技・基礎体力の向上(Ⅳ) 第10週 新体力テスト 第11週 新体力テスト 第12週 新体力テスト 第13週 球技・基礎体力の向上(Ⅴ) 第14週 球技・基礎体力の向上(Ⅵ) 第15週 球技・基礎体力の向上(Ⅶ)	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G2)(D-G2)自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。 2. (D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 3. (D-G2)サッカー, バスケットボールの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚える ことができるようになります。 ■参考文献 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」(大修館) ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回)　方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(30%)と授業への積極性(30%)、保健体育理論(20%)定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 課題レポートを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所 : 齊藤彰 :本館1階学生部 逸見俊太 :本館2階寮務部 ■授業評価アンケート実施 10月に Web Class にて実施します。 ■メールアドレス 齊藤 :saitoh@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 齊藤彰(金曜8限学生部)

科目名: 保健体育1b		英文名: Health and Physical Education 1b	
担当者: 齊藤 彰　逸見俊太			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 体育理論 第 2週 球技・基礎体力の向上(Ⅰ) 第 3週 球技・基礎体力の向上(Ⅱ) 第 4週 球技・基礎体力の向上(Ⅲ) 第 5週 球技・基礎体力の向上(Ⅳ) 第 6週 陸上競技・マラソン 第 7週 陸上競技・マラソン 第 8週 陸上競技・マラソン 第 9週 陸上競技・マラソン 第10週 陸上競技・計測 第11週 新体力テスト 第12週 新体力テスト 第13週 新体力テスト 第14週 球技・基礎体力の向上(Ⅴ) 第15週 球技・基礎体力の向上(Ⅵ)	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G2)(D-G2)自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。 2. (D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 3. (D-G2)ソフトバレー, ソフトボール, マラソンの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚えることができるようになります。 ■参考文献 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」(大修館) ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回)　方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(30%)と授業への積極性(30%)、保健体育概論(20%)定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 課題レポートを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所 : 齊藤彰 :本館1階学生部 逸見俊太 :本館2階寮務部 ■授業評価アンケート実施 3月に Web Class にて実施します。 ■メールアドレス 齊藤 :saitoh@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 齊藤(金曜8限学生部)

科目名: 保健体育(理論)1a		英文名: Health and Physical Education 1a	
担当者: 川合裕也			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 授業説明 第 2週 体育理論 スポーツの科学Ⅰ 第 3週 体育理論 スポーツの科学Ⅱ 第 4週 体育理論 運動の分析Ⅰ 第 5週 体育理論 運動の分析Ⅱ 第 6週 体育理論 スポーツトレーニングⅠ 第 7週 体育理論 スポーツトレーニングⅡ 第 8週 新体力テスト 第 9週 新体力テスト 第10週 新体力テスト 第11週 新体力テスト 第12週 新体力テスト 第13週 保健 熱中症とその予防 第14週 保健 喫煙と健康 第15週 保健 飲酒と健康	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(C-G2)(D-G2)自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。 2.(D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 ■参考文献 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」(大修館) ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(30%)と授業への積極性(30%)、保健体育理論(20%)定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 課題レポートを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所 : 本館2階寮務部 ■授業評価アンケート実施 10月に Web Class にて実施します。 ■メールアドレス kawai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜8限寮務部

科目名: 保健体育(理論)1b		英文名: Health and Physical Education 1b	
担当者: 川合裕也			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 授業説明 第 2週 体育理論 スポーツへのアプローチⅠ 第 3週 体育理論 スポーツへのアプローチⅡ 第 4週 体育理論 スポーツの文化史Ⅰ 第 5週 体育理論 スポーツの文化史Ⅱ 第 6週 体育理論 スポーツと社会Ⅰ 第 7週 体育理論 スポーツと社会Ⅱ 第 8週 新体力テスト 第 9週 新体力テスト 第10週 新体力テスト 第11週 新体力テスト 第12週 新体力テスト 第13週 心肺蘇生法 第14週 薬物乱用と健康 第15週 性感染症・エイズとその予防	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(C-G2)(D-G2)自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。 2.(D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 ■参考文献 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」(大修館) ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(30%)と授業への積極性(30%)、保健体育理論(20%)定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 課題レポートを教科書・参考書で調べ、自宅学習して下さい。 ■教員所在場所 : 本館2階寮務部 ■授業評価アンケート実施 3月に Web Class にて実施します。 ■メールアドレス kawai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜8限寮務部

科目名: 芸術 (音楽)		英文名: Music	
担当者: 佐山絵美			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期・後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス サウンドスケープ 第 2週 リズム表現 ボディパーカッション 第 3週 バロック・古典派の音楽 合唱 第 4週 バロック・古典派の音楽 合唱 第 5週 ハンドベル 第 6週 ハンドベル 第 7週 ロマン派の音楽 合唱 第 8週 ロマン派の音楽 合唱 第 9週 創作表現 第10週 創作表現 第11週 近代・現代の音楽 合唱 第12週 近代・現代の音楽 合唱 第13週 ミュージカル 合唱 第14週 ライフヒストリー サウンドロゴ 第15週 音楽発表	■授業概要・方法等 音楽表現及び鑑賞を通して、多様な音楽に対する理解を深めます。個々の感性を尊重し、発想力を育むとともに創造的な音楽活動を展開します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G2)音や音楽への関心を高め、豊かな情操を養う。 2. (D-G2)感性や発想力を磨き、創造力を身に付ける。 ことができるようになります。 ■教科書 独自の資料を使用 ■参考文献 独自の資料を使用 ■関連科目 なし ■成績評価方法および基準 定期考査成績:実技(50%)、レポート(25%)、創作作品(25%)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、 60点以上70点未満「可」、60点未満 「不可」 ■授業時間以外に必要な学習:配布資料を確認し、授業内容を復習。 ■教員所在場所 :2号館2階 共通教育科教員室 ■授業評価アンケート実施方法 前期科目は10月に Web Class への入力にて実施します。 後期科目は2月に Web Class への入力にて実施します。 ■メールアドレス :sayama@ktc.ac.jp ■オフィスアワー :木曜日12:45～13:45

科目名: 芸術 (書道)		英文名: Calligraphy	
担当者: 奥野年光			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期・後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 生涯学習と国際化への対応 第 2週 筆使いの基本と文房四宝 第 3週 書の心得、美への感性 第 4週 古典(六朝の書法) 第 5週 古典(唐の書法) 第 6週 古典(三筆と三跡) 第 7週 平仮名と変体がな1 第 8週 平仮名と変体がな2 第 9週 創作 調和体(仮名まじり文) 第10週 創作 調和体(仮名まじり文) 第11週 創作 (色紙に書いてみる) 第12週 創作 高専祭出品作品 第12週 創作 高専祭出品作品 第14週 創作 高専祭出品作品 第15週 創作 高専祭出品作品 ■指針 学年を二つに分け、前期2クラスそして後期2クラスを対象に同様の授業を行う。	■授業概要・方法 書写教育を単なる希薄な技法伝授の場にすることのないよう、時代を見通す明瞭な視点と思考を持ち、授業を展開します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を履修することによって、受講者は単なる「お習字」的な書き方だけを学ぶのではなく、「文字を手書きすること」の価値と意義を学び、豊かな情操と高い気品をもって生き生きと実生活で活躍できるようになります。そして、 1. (C-G1)書を通して、自国および世界の文化と価値観を理解する 2. (C-G1)書を通して、国語の基礎学力を身につける 3. (D-G2)書を通して、創造力を身につける ことができるようになります。 ■教科書 特になし ■参考文献 和漢書道史 書の古典美 古典仮名字鑑 文房四宝 墨場必携 詠物詩選 五体字類 ■関連科目 特になし ■成績評価方法および基準 定期考査成績:毎時間提出する清書・最後の創作作品(80%)、そして通常の授業態度(書く態度と意欲)(20%)を基に評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、 60点以上70点未満「可」、60点未満 「不可」 ■授業時間以外に必要な学習:講義内容の習得に関するレポート作成 ■教員所在場所 :2号館2階 共通教育科教員室 ■授業評価アンケート実施方法 前期は10月に Web Class にて入力します。 後期は2月に Web Class にて入力します。 ■メールアドレス ousyuu1206@yahoo.co.jp ■オフィスアワー 水曜日15:30～16:30

科目名： 防災リテラシー			
英文名： Literacy for disaster prevention			
担当者： 鈴木 隆　神田 毅　五十石 浩			
工学科： 総合システム	学年： 1	コース： 全	開講期： 通年
科目種別： 必修	単位数： 1		

授 業 計 画

第１週　近年の自然災害に学ぶ
第２週　災害とは
第３週　地震の話１
第４週　地震の話２
第５週　地震の話３
第６週　地震の話４
第７週　津波災害１
第８週　津波災害２
第９週　津波災害３
第10週　津波災害４
第11週　震災と住宅１
第12週　震災と住宅２
第13週　震災と住宅３
第14週　震災と住宅４
第15週　ライフライン１
第16週　ライフライン２
第17週　ライフライン３
第18週　ライフライン４
第19週　巨大地震１
第20週　巨大地震２
第21週　巨大地震３
第22週　巨大地震４
第23週　台風と豪雨災害１
第24週　台風と豪雨災害２
第25週　台風と豪雨災害３
第26週　台風と豪雨災害４
第27週　災害情報１
第28週　災害情報２
第29週　演習
第30週　後期期末試験

■授業概要・方法等
この授業は、平成24年度に採択された文部科学省大学間連携共同教育推進事業「近畿地区7高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築」の一環で、兵庫県南部地震をはじめとする大規模災害から復興した経験を持つ近畿地区7高専が協働で、国公私立の垣根を越えて、災害時にリーダーとして活動できる防災技能をもった技術者教育を実施するものです。防災に関しては、行政との連携が重要であるため、三重県や名張市、近畿地区7高専と連携した授業とします。

■学習・教育目標および到達目標
受講者は、この授業を履修することによって、
1. (B-G1)防災、減災に関する知識、技能を向上する。
2. (B-G2)地震等の災害に対し、学んだ防災リテラシーを実践的問題解決に応用する。
3. (D-G1)社会科学および自然科学の分野の基礎学力を広く身につける。
ことができるようになります。

■教科書　防災リテラシーを配布します。

■参考文献　テーマごとに映像および資料を上映します。

■関連科目　なし

■成績評価方法および基準
後期期末試験のみで評価します。
90点以上「秀」, 80点以上～90点未満「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」
■授業時間外に必要な学修　授業で学んだ災害事例を踏まえて、災害を防ぐ方法を調べるともにその理解を深めてください。

■教員所在場所　鈴木：本館2階寮務部　神田：図書館2階学習指導室　五十石：図書館2階都市環境教員室

■授業評価アンケート実施方法　2月にweb classにて実施します。

■メールアドレス　鈴木：t_suzuki@ktc.ac.jp　神田：kanda@ktc.ac.jp　五十石：isoishi@ktc.ac.jp

■オフィスアワー　鈴木：火曜日8限　神田：月・火曜日12:25～12:55　五十石：木曜日8限

科目名: 中国語 初級a		英文名: Chinese(beginner's class)a	
担当者: 小林千津(王樹岩)			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス(中国語の特徴と概要及び授業の進め方) 第 2週 発音編(音節の成り立ち、母音1) 第 3週 発音編(子音1) 第 4週 発音編(子音2) 第 5週 発音編(母音2) 第 6週 発音編(母音3) 第 7週 発音編(音節のつづり方、声調の変化) 第 8週 発音編(発音の総合練習1) 第 9週 テスト返却・解説と共通弱点の補強練習 第10週 発音編(発音の総合練習2) 第11週 第1課 你好!(こんにちは!) 第12週 第2課 谢谢! (ありがとう。) 第13週 第3課 你叫什么名字?(あなたの名前は?) 第14週 第4課 我是日本人。(わたしは日本人です。) 第15週 第4課の継続	■授業概要・方法等 授業概要: ①中国語発音(ピンイン)の学習 ②挨拶語の学習 ③自己紹介の習得 授業方法: ①日本語ローマ字と比べながらピンインを教える。 ②各課の基本文型や文法を教え、本文の反復音読やロールプレイで練習をする。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (E-G2)(E-2)中国語の背景となる歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考える、 2. (E-G2)(E-2) 言語学、音韻学的に中国語を理解し、中国語の基礎学力を身に付けます。具体的には、前期に於いては、中国語発音記号(ピンイン)の読み、書き、聞き、話すことができ、字引きを利用できるように習得する。中国語での挨拶ができ、自己紹介ができるように習得する。 ■教科書 標準高校中国語(白帝社)を使用します。また、夏季休暇には課題プリントを課します。 ■参考文献 その他の教材。 ■関連科目 特にありません。 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回) 方式:記述式, リスニング 定期考査成績:(中間)記述式70点、リスニング30点。 (期末)記述式60点、リスニング30点。 夏季課題(プリント) 10点。(期末点に加算します。) 最終成績 : 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90点以上 「秀」, 80点以上～90点未満 「優」, 60点以上～80点未満 「良」, 50点以上～60点未満 「可」, 50点未満 「不可」 と評定します。 ■授業以外に必要な学習:教科書の中の練習問題と課題プリントを使った予習と復習 ■授業アンケート実施方法 10月に Web Class にて実施します。 ■教員所在場所 図書館1階 国際交流部 ■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜午後

科目名: 中国語 初級b		英文名: Chinese (beginner's class) b	
担当者:小林千津(王樹岩)			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解説と共通弱点の補強練習 第 2週 第5課 你是不是高中生?(あなたは高校生ですか。) 第 3週 第5課の継続 第 4週 第6課 这是什么?(これは何ですか。) 第 5週 第6課の継続 第 6週 第7課 这是我的词典 (これはわたしの辞書です。) 第 7週 第7課の継続 第 8週 第8課 你喝茶吗?(あなたはお茶を飲みますか。) 第 9週 第8課の継続 第10週 答案返却・解説と共通弱点の補強練習 第11週 第9課 这个很好。 (これはとてもよい。) 第12週 第9課の継続 第13週 第10課 你有零钱吗?(小銭をお持ちですか。) 第14週 第10課の継続 第15週 第10課の継続	■授業概要・方法等 授業概要: 述語文を中心として、名詞、動詞、形容詞、指示代詞、疑問詞、所属・所有、数字などの使い方について学習する。 授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現や文法を教える。 ②本文の反復音読やロールプレイで練習をする。 ③練習問題を使って理解を深める。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1.(E-G2)(E-2) 背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えることがができるようになります。 2. (E-G2)(E-2)中国語言語学、音韻学的に中国語を理解し、各種述語文の基本文型や語彙を習得し、最も使う日常会話ができるように習得することができる。 ■教科書 標準高校中国語(白帝社) ■参考文献 その他の教材。 ■関連科目 特にありません。 ■成績評価方法および基準 種類 : 定期試験 方式 : 記述式, リスニング 成績 : 記述式70点、リスニング30点。 最終成績 : 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90点以上 「秀」, 80点以上～90点未満 「優」, 60点以上～80点未満 「良」, 50点以上～60点未満 「可」, 50点未満 「不可」 と評定します。 ■授業以外に必要な学習:教科書の中の練習問題と課題プリントを使った予習と復習 ■授業アンケート実施方法 2月に Web Class にて実施します。 ■教員所在場所 図書館1階 国際交流部 ■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜午後

科目名: 英語演習1a		英文名: English Seminar 1a	
担当者: 藤川雅行			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 文の種類 第 2週 文型1 第 3週 文型2 第 4週 現在時制 過去時制 第 5週 未来表現 第 6週 完了形1 第 7週 完了形2 第 8週 完了形3 第 9週 答案返却・解答 第10週 助動詞1 第11週 助動詞2 第12週 助動詞3 第13週 受動態1 第14週 受動態2 第15週 受動態3	■授業概要・方法等 英語学習の基礎となる文法学習を行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(E-G2)(E-2)英文法の基礎を習得できる。 2.(E-G2)(E-2)読解や英作文に必要な基礎力を習得できる 3.(E-G2)(E-2)英語への関心を持つ。 ことができるようになります。 ■教科書 英語演習ノートオレンジ版 数研出版 ■参考文献 なし ■関連科目 英語1 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回)、方式:記述式と選択式 定期考査成績:定期試験100%で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 予習として、練習問題を解いておくことが必要です。 ■教員所在場所 2号館2階共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 10月にwebclassへの入力にて実施します。 ■メールアドレス 藤川:fujikawa`ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と木曜日の12時15分～12時55分

科目名: 英語演習1b		英文名: English Seminar 1b	
担当者: 藤川雅行			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答 第 2週 不定詞1 第 3週 不定詞2 第 4週 不定詞3 第 5週 不定詞4 第 6週 動名詞1 第 7週 動名詞2 第 8週 分詞1 第 9週 分詞2 第10週 答案返却・解答 第11週 比較1 第12週 比較2 第13週 関係詞1 第14週 関係詞2 第15週 関係詞3	■授業概要・方法等 英語学習の基礎となる文法学習を行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(E-G2)(E-2)英文法の基礎を習得できる。 2.(E-G2)(E-2)読解や英作文に必要な基礎力を習得できる 3.(E-G2)(E-2)英語への関心を持つ。 ことができるようになります。 ■教科書 英語演習ノートオレンジ版 数研出版 ■参考文献 なし ■関連科目 英語1 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回)、方式:記述式と選択式 定期考査成績:定期試験100%で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とします。 90点以上「秀」80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 予習として、練習問題を解いておくことが必要です。 ■教員所在場所 2号館2階共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 2月にwebclassへの入力にて実施します。 ■メールアドレス 藤川:fujikawa`ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と木曜日の12時15分～12時55分

科目名： 基礎数学演習a		英文名： Fundamental Mathematics Exercise a	
担当者： 神田　毅			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 0.5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　ガイダンス、中学校数学の発展問題演習 第　2週　中学校数学の発展問題演習 第　3週　中学校数学の発展問題演習 第　4週　中学校数学の発展問題演習 第　5週　中学校数学の発展問題演習 第　6週　中学校数学の発展問題演習 第　7週　中学校数学の発展問題演習 第　8週　中学校数学の発展問題演習 第　9週　基礎数学aの発展問題演習 第10週　基礎数学aの発展問題演習 第11週　基礎数学aの発展問題演習 第12週　基礎数学aの発展問題演習 第13週　基礎数学aの発展問題演習 第14週　基礎数学aの発展問題演習 第15週　基礎数学aの発展問題演習	■授業概要・方法等 必修科目の基礎数学に沿った発展問題の演習を行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)様々な発展問題を解く。 ことができるようになります。 ■教科書　指定しません。適宜プリントを配布します。 ■参考文献　なし　■関連科目　基礎数学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（1回），方式： 記述式 定期考査成績： 定期試験100％で評価します。 最終成績： 1回の定期考査成績を最終成績とします。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」。 ■授業時間外に必要な学修　配布する自習用練習問題と昨年度の定期試験問題。 ■教員所在場所／メールアドレス／オフィスアワー 神田毅：図書館2階学習指導室／kanda@ktc.ac.jp／月・火曜日12:25～12:55 ■授業評価アンケート実施方法　10月に Web Class で実施します。

科目名： 基礎数学演習b		英文名： Fundamental Mathematics Exercise b	
担当者： 神田　毅			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 0.5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　答案返却・解答、基礎数学aの発展問題演習 第　2週　基礎数学aの発展問題演習 第　3週　基礎数学aの発展問題演習 第　4週　基礎数学aの発展問題演習 第　5週　基礎数学aの発展問題演習 第　6週　基礎数学aの発展問題演習 第　7週　基礎数学aの発展問題演習 第　8週　基礎数学aの発展問題演習 第　9週　基礎数学bの発展問題演習 第10週　基礎数学bの発展問題演習 第11週　基礎数学bの発展問題演習 第12週　基礎数学bの発展問題演習 第13週　基礎数学bの発展問題演習 第14週　基礎数学bの発展問題演習 第15週　基礎数学bの発展問題演習	■授業概要・方法等 必修科目の基礎数学に沿った発展問題の演習を行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)様々な発展問題を解く。 ことができるようになります。 ■教科書　指定しません。適宜プリントを配布します。 ■参考文献　なし　■関連科目　基礎数学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（1回），方式： 記述式 定期考査成績： 定期試験100％で評価します。 最終成績： 1回の定期考査成績を最終成績とします。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」。 ■授業時間外に必要な学修　配布する自習用練習問題と昨年度の定期試験問題。 ■教員所在場所／メールアドレス／オフィスアワー 神田毅：図書館2階学習指導室／kanda@ktc.ac.jp／月・火曜日12:25～12:55 ■授業評価アンケート実施方法　2月に Web Class で実施します。

科目名： 基礎物理a		英文名： Fundamental Physics a	
担当者： 畑山 伸訓			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス・単位系 第 2週 直線運動と速度 第 3週 平面運動と速度 第 4週 加速度 第 5週 落体の運動 第 6週 力とそのはたらき 第 7週 力のつりあい 第 8週 運動の法則 第 9週 答案返却・解答，摩擦を受ける運動 第10週 液体や気体から受ける力 第11週 剛体にはたらく力のつりあい 第12週 仕事 第13週 運動エネルギー 第14週 位置エネルギー 第15週 力学的エネルギーの保存	■授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に、自然界に現れるさまざまな現象（力学、熱力学）の法則性や考え方を学びます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は，この授業を履修することによって， 1．(A-G1)(D-G1)物体の運動、働く力等の中に法則性があることを実感します。 2．(A-G1)(D-G1)運動の法則、エネルギー保存則などの物理法則の意味がある程度理解できます。 3．(A-G1)(D-G1)物体の運動、働く力、エネルギー等の基本的な問題を解くことができます。 4．(A-G1)(D-G1)物体の運動、働く力、エネルギー等の物理法則が工業へ応用されることを実感します。 ことができるようになります。 ■教科書 「総合物理 －力と運動・熱」 数研出版 (問題集) 「リードα物理基礎・物理」 数研出版 ■参考文献 「フォトサイエンス 物理図録」 数研出版 ■関連科目 物理2a・2b・3a・3b，応用物理a・b ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回)，方式： 記述式 ならびに 課題 定期考査成績：定期試験80％ 課題20％で評価します。 最終成績：2回の定期試験を平均して評価します。 90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと ■教員所在場所 入試部または図書館2階学習指導室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にWeb Classにて実施します。 ■メールアドレス r-konno@ktc.ac.jp hatayama@tse.kutc.ac.jp ■オフィスアワー 畑山(水曜日 9限目)

科目名： 基礎物理b		英文名： Fundamental Physics b	
担当者： 畑山 伸訓			
工学科： 総合システム	学年： 1		開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答，運動量と力積 第 2週 運動量保存則 第 3週 反発係数 第 4週 等速円運動 第 5週 慣性力 第 6週 単振動 第 7週 万有引力 第 8週 熱と熱量 第 9週 熱と物質の状態 第10週 答案返却・解答，熱と仕事・エネルギー 第11週 エネルギー資源とその利用 第12週 気体の法則 第13週 気体分子の運動 第14週 気体の状態変化 第15週 不可逆変化と熱機関	■授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に、自然界に現れるさまざまな現象（力学、熱力学）の法則性や考え方を学びます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は，この授業を履修することによって， 1．(A-G1)(D-G1)衝突運動、回転運動、物質や気体の熱等の中に法則性があることを実感します。 2．(A-G1)(D-G1)運動量と力積、円運動、単振動、熱力学などの物理法則の意味がある程度理解できます。 3．(A-G1)(D-G1)衝突運動、回転運動、熱力学等の基本的な問題を解くことができます。 4．(A-G1)(D-G1)回転運動、熱力学等の物理法則が工業へ応用されることを実感します。 ことができるようになります。 ■教科書 「総合物理 －力と運動・熱」 数研出版 (問題集) 「リードα物理基礎・物理」 数研出版 ■参考文献 「フォトサイエンス 物理図録」 数研出版 ■関連科目 物理2a・2b・3a・3b，応用物理a・b ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回)，方式： 記述式 ならびに 課題 定期考査成績：定期試験80％ 課題20％で評価します。 最終成績：2回の定期試験を平均して評価します。 90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 各講義で指示された課題に取り組むこと ■教員所在場所 教務部または図書館2階学習指導室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にWeb Classにて実施します。 ■メールアドレス hatayama@tse.kutc.ac.jp ■オフィスアワー 畑山(水曜日 9限目)

科目名: 生物1a		英文名: Biology 1a	
担当者: 鈴木 隆			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 細胞の研究 第 2週 細胞の構造と働き 第 3週 細胞膜と物質の出入り 第 4週 細胞分裂 第 5週 細胞と生物体 第 6週 代謝とエネルギー代謝 第 7週 酵素とその特性 第 8週 酵素の最適活性条件 第 9週 呼吸, 同化, 異化 第10週 嫌気呼吸 第11週 好気呼吸 第12週 光合成のしくみ 第13週 光合成の条件 第14週 生物体内における化学合成 第15週 試験前演習	■授業概要・方法等 生物の基礎知識(細胞, 代謝, 遺伝)などを教授するなかで, 生命に対する探究心, 観察力, 倫理観などを養い, 他の教科の視野にいれて関連付け, 科学的英知の礎となるよう教授します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)細胞の仕組みを理解する。 2. (A-G1)(D-G1)エネルギー代謝, 呼吸の仕組みを理解する。 3. (A-G1)(D-G1)光合成と窒素同化の関係を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 「つくるMy note 生物IB」学習研究社 ■参考文献 「生物図録」数研出版 ■関連科目 化学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1回), 方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(100 %)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 90点以上「秀」, 80点以上90点未満「優」, 70点以上80点未満「良」, 60点以上70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分を教科書・参考書で調べ, 自分なりにノート等にまとめ, 疑問が生じれば次回以降の授業にて教員に質問して下さい。 ■教員所在場所 本館2階 寮務部 ■授業評価アンケート実施方法 10月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス t_suzuki@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 生物1b		英文名: Biology 1b	
担当者: 鈴木 隆			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答 第 2週 化学合成と窒素同化 第 3週 無性生殖 第 4週 有性生殖 第 5週 減数分裂 第 6週 生殖細胞の形成 第 7週 生殖細胞の受精 第 8週 生殖についてのまとめ 第 9週 生殖についての図解演習 第10週 自然界の生物の関係 第11週 自然界の仕組み 第12週 生活環 第13週 発生の過程 第14週 発生のしくみ 第15週 試験前演習	■授業概要・方法等 生物の基礎知識(細胞, 代謝, 遺伝)などを教授するなかで, 生命に対する探究心, 観察力, 倫理観などを養い, 他の教科の視野にいれて関連付け, 科学的英知の礎となるよう教授します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)無性生殖, 有性生殖の違いについて理解する。 2. (A-G1)(D-G1)発生について理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 「つくるMy note 生物IB」学習研究社 ■参考文献 「生物図録」数研出版 ■関連科目 化学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1回), 方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(100 %)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 90点以上「秀」, 80点以上90点未満「優」, 70点以上80点未満「良」, 60点以上70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■授業時間外に必要な学修 授業で省略した部分を教科書・参考書で調べ, 自分なりにノート等にまとめ, 疑問が生じれば次回以降の授業にて教員に質問して下さい。 ■教員所在場所 本部棟2階 寮務部 ■授業評価アンケート実施方法 2月に Web Class にて入力を実施します。 ■メールアドレス t_suzuki@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 情報処理Ⅰa		英文名: Information Processing Ⅰa	
担当者: 坂東将光 栗木直美 武田正幸 木谷有希 山下浩昭			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス・情報処理教育センター演習室の環境および使用するｺﾝﾋﾟｭｰﾀ の使用方法の説明 第 2週 情報処理について(1) 第 3週 ソフトウェアの利用I(文書処理ソフトウェア) (1) 第 4週 ソフトウェアの利用I(文書処理ソフトウェア) (2) 第 5週 ソフトウェアの利用I(文書処理ソフトウェア) (3) メールの利用(1) 第 6週 ソフトウェアの利用I(文書処理ソフトウェア) (4) メールの利用(2) 第 7週 演習問題 第 8週 演習問題 第 9週 答案返却・解答 情報処理について(2) 第10週 コンピュータの歴史:利用形態、ディジタル化 第11週 情報化の進展と産業社会, 情報のモラルと管理 第12週 オペレーティングシステムの基礎 プログラム言語の基礎 第13週 情報の収集・活用とﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ,ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱの概要 ソフトウェアの利用I(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝソフトウェア) (1) 第14週 ソフトウェアの利用I(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝソフトウェア) (2) 第15週 ソフトウェアの利用I(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝソフトウェア) (3)	■授業概要・方法等 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解するとともに、情報技術の基礎的な知識と技術を習得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G2)文書処理ソフトとメールがおおよそ使いこなせる。 2. (A-G2)コンピュータの発展と歴史的な経緯を理解しながら、利用形態を学ぶ。 ことができるようになります。 ■教科書 新編 情報技術基礎 オーム社 ■関連科目 数学 ■試験方法 種類: 定期試験(2回)、記述式 ■成績評価基準 定期考査成績:定期試験(100%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 90点以上「秀」, 80点以上～90点未満「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」。 ■授業時間外に必要な学修 授業において口頭説明だけで済まされた内容を教科書・参考資料等で調べ各自ノートを作成すること。調べた上での疑問等は、後日担当教員に質問の上、解決すること。 ■教員所在場所 坂東将光: 図書館2階 学習指導室 栗木直美、武田正幸、山下浩昭: 3号館2階 情報処理教育センター管理室 木谷有希: 本館1階寮務部 ■授業アンケート実施方法 10月に Web Class にて実施します。 ■メールアドレス ■オフィスアワー 坂東将光:bando@ktc.ac.jp 木曜日 9限 栗木直美:kuriki@ktc.ac.jp 木曜日12:15－13:00 武田正幸:mtakeda@ktc.ac.jp 月曜日 12:15－13:00 木谷有希:kitani@ktc.ac.jp 水曜日 12:15-13:00 山下浩昭: hiroaki yamashita@ktc.ac.jp 授業日 12:15-13:00

科目名: 情報処理Ⅰb		英文名: Information Processing Ⅰb	
担当者: 坂東将光 栗木直美 武田正幸 木谷有希 山下浩昭			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答 第 2週 情報処理について(3) ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア) (1) 第 3週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア) (2) 第 4週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア) (3) 第 5週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア) (4) 第 6週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア) (5) 第 7週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア) (6) 第 8週 演習問題 第 9週 演習問題 第10週 答案返却・解答 数値の扱いと表現:10進数,2進数,16進数(1) 第11週 数値の扱いと表現:10進数,2進数,16進数(2) 第12週 数値の扱いと表現:10進数,2進数,16進数(3) 第13週 コンピュータの基本構成と動作 第14週 周辺装置 第15週 演習問題	■授業概要・方法等 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解するとともに、情報技術の基礎的な知識と技術を習得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G2)表計算ソフトがおおよそ使いこなせる。 2. (A-G2)ハードウェアに関する基本的な知識と技術を習得する。 ことができるようになります。 ■教科書 新編 情報技術基礎 オーム社 ■関連科目 数学 ■試験方法 種類: 定期試験(2回)、記述式 ■成績評価基準 定期考査成績:定期試験(100%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 90点以上「秀」, 80点以上～90点未満「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」。 ■授業時間外に必要な学修 授業において口頭説明だけで済まされた内容を教科書・参考資料等で調べ各自ノートを作成すること。調べた上での疑問等は、後日担当教員に質問の上、解決すること。 ■教員所在場所 坂東将光: 図書館2階 学習指導室 栗木直美、武田正幸、山下浩昭: 3号館2階 情報処理教育センター管理室 木谷有希: 本館1階寮務部 ■授業アンケート実施方法 2月に Web Class にて実施します。 ■メールアドレス ■オフィスアワー 坂東将光:bando@ktc.ac.jp 木曜日 9限 栗木直美:kuriki@ktc.ac.jp 木曜日12:15－13:00 武田正幸:mtakeda@ktc.ac.jp 月曜日 12:15－13:00 木谷有希:kitani@ktc.ac.jp 水曜日 12:15-13:00 山下浩昭: hiroaki yamashita@ktc.ac.jp 授業日 12:15-13:00

科目名: 工学実験・実習1		英文名: Engineering Experiments and Practice 1	
担当者:右松亨 天野克明 川嶋祐介 田口善文 青木繁 吉川隆 九門五郎 田中和幸 武田正幸 梱原友紀子 桑川栄一 逸見俊太			
工学科: 総合システム	学年: 1		開講期: 通年
科目種別: 必修	単位数: 4		

授 業 計 画

第1週　ガイダンス

各班に別れてローテーションしながら実験を行います。
第2週～第5週・・・・・第1回～第4回実験
第6週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導
第7週～第10週・・・・第5回～第8回実験
第11週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導
第12週～第15週・・・第9回～第12回実験
第16週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導
第17週～第20週・・・・第13回～第16回実験
第21週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導
第22週～第25週・・・第17回～第20回実験
第26週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導
第27週～第30週・・・補足実験

---実験テーマ---
◇機械系・・・・・・・・　2週・・・右松、天野、川嶋
　M1～4『旋盤の使用方法および旋盤を用いた簡単な製品の製作』
◇都市環境(土木系)・・・　2週・・・田口
　C1～4『①建設材料実験、②コンクリート実験』
◇都市環境(建築系)・・・　2週・・・青木
　A1～2『①建築デザイン、②造形デザイン』
◇電気電子系・・・・・・　2週・・吉川、九門
　E1～2『電子工作の基礎①～②』
◇制御情報系・・・・・・　4週・・・武田、梱原
　I1～4『JAVA、html、Javascriptの演習』
◇製図・・・・・・・・・　4週・・・田中
　H1～4『製図の基礎。手書き製図演習』
◇CAD・・・・・・・・・　4週・・・桑川、逸見
　D1～4『JWCADを用いたCAD製図 ①基本操作(作図と保存)、②家具の作図、③平面図の作図、④文字・寸法の記入』

授 業 概 要

■授業概要・方法等
　技術者をめざす高専の学生を対象とした工学系に関する基本的な実習・実験を行います。基本的な計測器の使い方、実験を進める手順を学び、結果に対する考察検討を行います。製図については、製図の基礎知識、第三角法について学び、手書き製図・CAD製図の演習を行います。
■学習・教育目標および到達目標
　受講者は、この授業を履修することによって、
1. (A-G2)機械系、電気電子系、制御情報系、都市環境(土木系、建築系)などの工学の基本的な事項を，実際に体験しながら学ぶと同時に，実験科目への取組み方を習得する。
2. (A-G2)実験報告レポートの基本的な書き方・まとめ方を習得し、結果に対する考察を検討する習慣をつける。
3. (A-G2)各コースに共通的なCADや製図についても実際に体験することによって基礎知識を習得する。
ことができるようになります。
■教科書　各担当教員自作の資料
■関連科目　物理，数学，工学一般
■成績評価方法および基準
各自が実験のレポートまたは作品を提出しなければなりません。実習の最後に小テストを課すテーマもあります。 成績は実験中の態度(20%)、提出物・作品による評価(80%)の配分とします。90点以上「秀、80点以上～90点未満「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」
■授業時間外に必要な学修　身近な工学に関する様々な現象を実験・実習で確認したり、物体が図面でどのように表示されていいるかを考える。
■授業評価アンケート実施方法　3月に Web Class にて実施します。
■教員所在場所/メールアドレス/オフィスアワー
右松、天野:4号館1階技術員控室/migimatsu@ktc.ac.jp/月曜日9限
川嶋:本館2階寮務部/kawashima@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00
田口:本館2階企画広報部/taguchi@ktc.ac.jp/木曜日9限
青木:本館2階企画広報部/aokis@ktc.ac.jp/木曜日9限
吉川:2号館3階エコロジー実験室/yoshikawa@ktc.ac.jp/火曜日12:15～13:00
九門:3号館1階電気電子・情報系教員室/kumon@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00
武田:3号館2階情報処理教育センター管理室/mtakeda@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00
梱原:3号館2階情報処理教育センター管理室/kunihara@ktc.ac.jp/月曜日12:15～～13:00
田中:本館2階地域連携テクノセンター/tanaka@ktc.ac.jp/火曜日12:15～13:00
桑川:3号館2階情報処理教育センター管理室/kuwakawa@ktc.ac.jp/水曜日
逸見:本館2階寮務部/henmi@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00

科目名： 特別活動		英文名： specials activities	
担当者： 1～3年生の担任教員			
工学科： 総合システム	学年： 1,2,3	コース： 全	開講期： 通年
科目種別： 必修	単位数： 1,1,1	・・・1年(30)、2年(30)、3年(30)=計90単位時間以上実施する。	

授 業 計 画	授 業 概 要
(第1週～第7週) ・目標を計画する。(短期、中期(=今年度)、長期(卒業するまで) ・個人面談 ・全校集会 (前年度後期:クラブ・課外・ボランティア活動表彰) ・新入生オリエンテーション(1年生) ・コース選択のための説明会 ・・・(1年生) (2年生) ・自校学習 ・資格の紹介 ・個人面談 ・交通安全教育・情報ネチケット教育 ・主権者教育(模擬選挙・投票など) ×1回 ・・・(2年生) ・試験一週間前 学年集会(試験の心得・服装頭髪指導・その他注意) ・自校学習(課題提出) ---------- [前期中間] (第8週～第15週) ・目標・計画をふりかえり、次の目標を計画する。 ・個別面談 ・球技大会・体育祭(近大高専No1グランプリ:(KK1-GP)の準備・出場メンバー割り当ての指導 ・自校学習 ・キャリア教育・進路ガイダンス ・全校集会(選手壮行会) ・長期休み前注意指導等 ・個別面談 ・試験一週間前 学年集会(試験の心得・服装頭髪指導・その他注意) ・自校学習(課題提出) ---------- [前期期末] (第16週～第22週) ・目標・計画をふりかえり、次の目標を計画する。 ・個人面談 ・学修時間の実態と学修行動の把握に関するアンケート。授業科目毎のアンケート。 ・全校集会(前期:クラブ・課外・ボランティア活動等表彰) ・自校学習 ・金曜市民公開講座×1回 ・・・(1年生) (3年生) ・文化祭(高専名張祭)におけるクラス催し物決定についての指導 ・コース選択のための説明会 ・・・(1年生) (2年生) ・個人面談 ・交通安全教育・情報ネチケット教育 ・防災避難訓練 ・試験一週間前 学年集会(試験の心得・服装頭髪指導・その他注意) ・長期休み前注意指導等 ・自校学習(課題提出) ----------[後期中間] (第23週～第30週) ・目標・計画をふりかえり、次の目標を計画する。 ・個人面談 ・研修旅行について説明会×2回 ・・・(2年生) ・自校学習 ・個人面談 ・試験一週間前 学年集会(試験の心得・服装頭髪指導・その他注意) ・自校学習(課題提出) ----------[後期期末] ・目標・計画をふりかえり、次の目標を計画する。 ・個人面談 ・学修時間の実態と学修行動の把握に関するアンケート。授業科目毎のアンケート。	特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、学生会活動、学校行事などを行なう。 具体的には、 ・自校教育を通じて、「実学教育」と「人格の陶冶」という学園の教育理念を学ぶ。 ・学生個人個人については、これまでの義務教育で受動的だった学習を各学生に目標を立てさせて、その状況を把握し、次の目標へとスパイラルアップさせていき、自主的・能動的な学習へ移行を進める。 ・全体指導や個別面談補通じて、学習へのモチベーションを上げさせる。 ・ホームルーム活動を通じて、人としての守るべきルールを理解させていく。 ・自校学習・市民公開講座を通じて、広い視野で、色々な分野のことを学習する。 ・球技大会・体育祭(KK1-GP)や、文化祭(高専名張祭)等の学生会活動を通じて、クラスで協力して実施し、よりよい人間関係を築き、協調性を養うことを学ぶ。